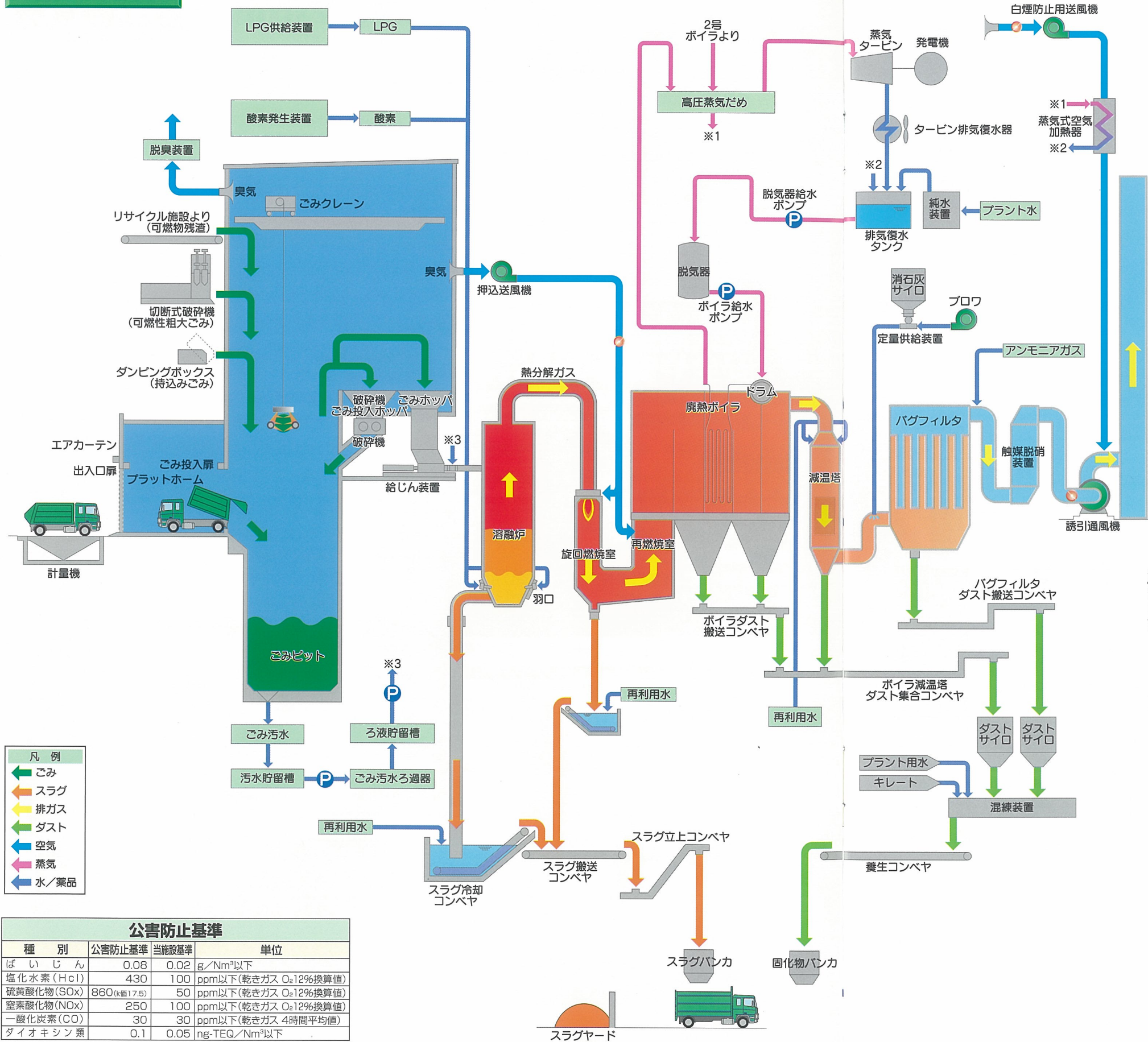
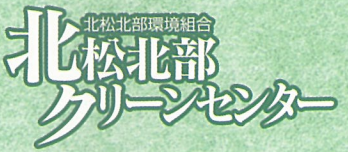


ごみ処理施設 (溶融処理施設)

フローシート

ダイオキシン類ほか公害物質を限りなく「0」に近づけた資源循環型システムです。



ごみの流れ

ごみ収集車や一般持込で当施設へ運ばれた燃えるごみは計量機で計量後、ごみピットへ投入されます。ピット内のごみは破碎・攪拌し、ごみ質を均一化した後ホッパに投入されます。ホッパに投入されたごみは給じん装置により溶融炉内に供給されます。

溶融の流れ

溶融炉内に供給されたごみは炉内で溶融され、出滓口より連続的にスラグ冷却コンベヤに落下し急速冷却された後、スラグバンカからスラグヤードへ搬送貯留されます。溶融炉で発生した微量のチャー(炭素)・ダスト類を含む可燃性ガスは、巡回燃焼室で溶融され、その後、再燃焼室で二次空気を吹き込み、完全燃焼を図ります。

排ガス/ダストの流れ

再燃焼室より送られた排ガスは廃熱ボイラと減温塔で冷却後、バグフィルタでばいじんを捕集し、脱硝装置で窒素酸化物を除去後、煙突より排気されます。バグフィルタなどで捕集されたダストは重金属の溶出を防ぐため、混練装置にて薬剤処理されます。

蒸気の流れ

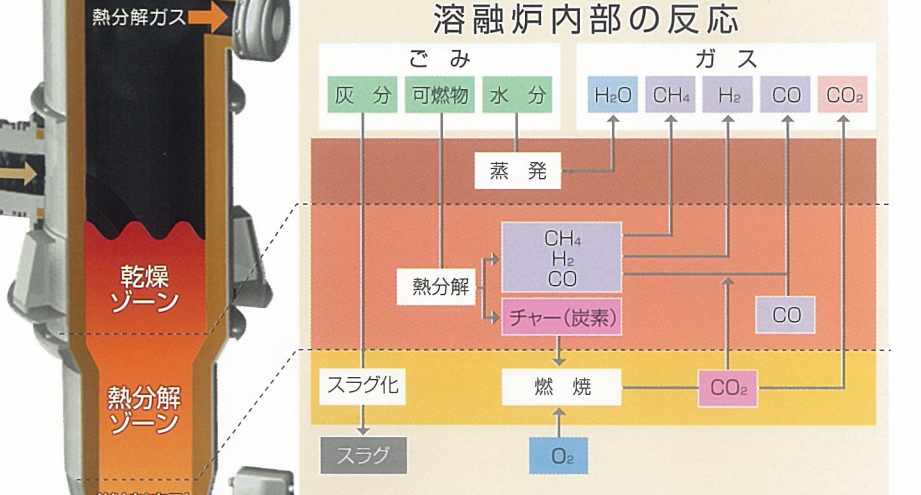
再燃焼室より送られた排ガスは廃熱ボイラで熱交換され蒸気がつくれます。蒸気は蒸気タービン・発電機で電気エネルギーに変換され施設内の電力として利用されます。

空気の流れ

ごみピット室内の臭気を含んだ空気は、巡回燃焼炉、再燃焼室の燃焼用空気として利用されます。さらに臭気は活性炭吸着塔により処理されます。

酸素式熱分解直接溶融炉

高濃度酸素を利用することで、副資材を極力減少させて、ごみの持つ熱量を最大限に利用して、ごみを高温溶融します。



溶融スラグの有効利用について

溶融スラグは、取扱いや運搬が容易で、化学的に極めて安定しているため、道路舗装用材、景観素材、埋設配管の敷砂、埋戻し材など有効に利用することができます。



- 凡例
- ごみ
 - スラグ
 - 排ガス
 - ダスト
 - 空気
 - 蒸気
 - 水/薬品

公害防止基準			
種別	公害防止基準	当施設基準	単位
ばいじん	0.08	0.02	g/Nm ³ 以下
塩化水素 (HCl)	430	100	ppm以下(乾きガス O ₂ 12%換算値)
硫酸酸化物 (SO _x)	860 (k値17.5)	50	ppm以下(乾きガス O ₂ 12%換算値)
窒素酸化物 (NO _x)	250	100	ppm以下(乾きガス O ₂ 12%換算値)
一酸化炭素 (CO)	30	30	ppm以下(乾きガス 4時間平均値)
ダイオキシン類	0.1	0.05	ng-TEQ/Nm ³ 以下